

Gd-EOB-DTPA 造影 MRI を用いた肝切除周術期の解剖に

基づいた機能的肝容積評価に関する研究

・はじめに

肝癌等のために肝切除を行う際、手術前にその人の肝機能を正確に評価し、切除可能な範囲を決定することは術後の合併症を減らすために非常に重要です。Gd-EOB-DTPA（以下 EOB）とは、MRI 画像検査用の造影剤で、通常悪性腫瘍等の診断のために用いられますが、EOB は肝機能も反映することが知られています。そのため、EOB-MRI で肝腫瘍の存在診断のみでなく、肝機能の評価も可能ではないかと考えています。

・目的

この研究では EOB-MRI を用いた肝切除術前後の機能的肝容積評価法の有用性を検討します。

・対象

九州大学病院 消化器・総合外科(第2外科)において、平成23年1月1日～平成26年12月31日の期間に肝切除または肝移植術を受けられ、術前または術後に EOB-MRI 検査をうけられた方のうち、約100名を対象とします。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

・研究内容

上記患者さんの臨床データから、年齢、性別、身長、体重、術前後の肝機能データ(T-Bil, Alb, PT-INR, ICGR15)、手術術式、術前後の肝容積(3D-CT volumetry)、術後合併症(難治性腹水、肝不全の有無等)の臨床情報を収集します。そして術前後の EOB-MRI 画像を解析して実際に術後の肝機能・合併症を反映しているかどうかを評価します。

この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

・個人情報の管理について

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・研究期間

研究を行う期間は承認日より平成 28 年 3 月 31 日まで

・医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将来研究成果によってより正確な肝機能評価が可能となり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

・研究機関

九州大学大学院消化器・総合外科学分野

教授 前原 喜彦 (責任者)

准教授 調 憲

共同研究員 二宮 瑞樹

大学院生 木村 光一、今井 大祐、別城 悠樹、栗原 健、吉田 佳弘

九州大学大学院臨床放射線科学分野

講師 西江 昭弘

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

Tel : 092-642-5479 (消化器・総合外科外来) (平日 8:30~17:00)

092-642-5473 (消化器・総合外科病棟) (夜間・休日)

担当：木村 光一